

第 21 回アジア政経学会優秀論文賞選考理由

優秀論文選考委員会 小嶋華津子

菊地秀樹「中国国民党による戦時動員と地域社会—江南地域における忠義救国軍を中心として」掲載誌『アジア研究』第69巻第4号（2023年10月、19-38頁）

本論文は、中国江南地域において対日本遊撃戦の主力を担った中国国民党の準軍事組織「忠義救国軍」に焦点を当て、中華民国国民政府の戦時動員の状況を論じたものである。筆者が一次史料を駆使して描き出したのは、軍事史学において、①国内の平定および②義務兵役制度を要件とする、いわゆる「総力戦体制」とは乖離した戦場の現実であった。

本論文によれば、国民政府の権力の浸透が不十分であった当地域において、忠義救国軍は、その兵力を在地武装勢力や正規軍の落伍兵に依存せざるを得なかった。「抗日」や「反共」に基づく作戦よりも自己の生存を優先させる彼らを抱え込むことは、軍紀の乱れを生じさせるリスクを高めたが、兵力獲得における対日協力政権軍や新四軍との競合や資金難という現実の中では、それが唯一の選択肢であった。

本論文は、忠義救国軍の選択や行動を、国防部情報局の出版資料や国史館所蔵档案資料など一次史料を丹念に読み解きながら、実証的かつ論理的に描き出すことに成功している。また、その論理的叙述は、本ケースのみならず、地域や時代を超えて、国内の平定がなされず、近代的義務兵役制度が未確立な状況における地域社会と正規軍、準正規軍との関係を分析するに有用な普遍的視座を提示し、理論化へと道を切り拓く一歩となるであろう。

無論、本論文にも問題がないわけではない。特に、実証部分の興味深い発見が、「総力戦」概念を用いた先行研究への疑義という論点に帰結されてしまっている点は惜しまれる。また個別の記述においても、わずかながら正確さに欠ける部分もある。しかし、これらの点は、筆者が本論文を組み込みつつ博士論文を完成させる中で、十分に克服できる課題である。

以上のことから、選考委員一同は、本論文が学術的貢献をなしており、さらなる研究の発展を示唆するものであることを評価し、優秀論文にふさわしいと判断した。

受賞のことば

菊地秀樹

この度は第21回アジア政経学会優秀論文賞という栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員会ならびに編集委員会の先生方、そして拙稿の査読をお引き受けくださった匿名の先生方に深く御礼申し上げます。

今回賞をいただきました拙稿は、2022年のアジア政経学会春季大会での報告をベースにしておりまして、最初の原稿を2022年9月に『アジア研究』に投稿した後、査読の過程でいただいたアドバイスを参考にして加筆を重ね、2023年10月に『アジア研究』に掲載していただいたものです。東北大学の修士課程・博士課程の指導教員である阿南友亮先生には論文の起草段階から一貫して懇切丁寧なご指導をしていただきました。また、研究室の先輩である橋本誠浩さん、高暁彦さんにはどうしても視野が狭小になりがちな私の研究関心を常に大きな議論へ導いていただきました。

このように多くの方々のご指導がとご支援があつて初めてこのような賞を賜ることができたのですが、今回の受賞は、自分がこれまで如何に貴重な御縁に恵まれてきたのか改めて実感する機会となりました。思い返せば、私が学部の4年間を過ごした筑波大学において山本真先生の授業を受けたことが中国研究の道に進むきっかけとなりました。先生には地域研究の面白さならびに資料を徹底的に読み込む実証主義などについて御教授していただきました。その山本先生からの奨めで、私は、東北大学の中国政治史研究室の門を叩くこととなりました。

修士課程の2年間は、コロナによって行動が大きく制約され、当初予定していた台湾への留学も叶いませんでした。しかし、留学のタイミングがずれたからこそ得られた出会いもございました。博士課程に進学後によりやく台湾への留学が可能となり、今月初めまで2年間台湾の国立政治大学と中央研究院近代史研究所において資料収集をする貴重な機会をいただきました。修士の時とは打って変わり、仙台ではなかなかお会いできないような先生方に檔案館でばったりお会いすることがしばしばあり、大変恵まれた研究環境に身を置くことができました。台湾でお世話になったすべての先生方のお名前をここで紹介するのは控えさせていただきますが、台湾の地で研究指導と食糧援助をしてくださった先生方に、この場をお借りして、感謝申し上げます。現在の台湾の姿や中台関係を現地での生活を通じて肌感覚で実感できたことは、歴史研究をやりながらもそれが今日の状況にどのようなにつながっているのかを考えるうえでかけがえのない経験となりました。

これからも国民革命軍から中華民国、ひいては中国における近代化を捉え直すという研究テーマに向き合い続けて一意専心に研鑽を積んでいく所存でございます。皆様には今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。